

令和6年度 学校園評価シート

(様式2)

学校園名

鳩里幼稚園

1 教育目標 心豊かに学び合い、育ちあう子どもの育成

2 基本方針

幼児の一人一人の特性や発達を捉え、安心安全に園生活を送るための適切な援助や環境構成を工夫する。また、特に年長児は就学を意識しながら自立心、学びに向かう力や協同性を養い、小学校や地域との関わりや体験活動を通して健康で主体的に行動できる幼児の育成を目指す。

3 指導目標

(1)心も体も健やかで 明るい子 (2)思いやりがあり 心の優しい子 (3)様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 (4)自分の思いを伝え 素直に表現する子 (5)感じる心 考える力ある子

評価基準 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	成果	課題と改善の方策	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
基本的生活習慣の確立と情緒の安定を図る	◎心も体も健やかで 明るい子 ・挨拶や基本的生活習慣の確立をめざし、発達段階に即した生活を送ることができていたか。 ・幼児の体調、けが、事故などに関して常に敏感に対応し、保護者と連携を取りながら適切な処置を行っていたか。 ・指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成、遊びを深めていくための工夫をしたか。 ・一人一人の発達段階に応じた対応や視覚支援等を行うことで自信をもって行動できるよう支えたか。	B	・月に1度、ユニットで行っている”あいさつ運動”の日に、園児と一緒に正門や通用門に立っている。この日を楽しみにしている幼児も多く、友達や保護者、地域の方にも進んで元氣な挨拶を交わすきっかけになっていると思う。 ・幼児の発達や興味関心を捉え、幼児の気付きやつぶやきを丁寧に受け止めながら、一人一人が安心して自分のやりたい遊びを見つけていけるような援助や環境構成を工夫し、温かく声を掛けたり、一緒になって笑顔で活動に取り組んだりしたことで、様々な活動に興味をもって意欲的に過ごす姿が多く見られるようになった。	・園内に入ると元気に挨拶をする幼児が多いが、保護者と一緒にいると挨拶をしにくい傾向にある幼児が多いように感じる。挨拶が人と人をつなぐ大切なコミュニケーションのひとつであることや進んで挨拶を交わす心地よさ等を園児だけでなく、保護者にも伝えていきたい。	入園当初に比べて、子供たちの表情がいきいきとし、挨拶もできるようになっている。基本的生活習慣の確立については、家庭教育が第一だと考えるが、園と連携を密にしながら取り組んでいってほしい。	A
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を視点に、保育計画、実践、記録、評価を行い、幼児が主体的に遊びを展開できるような環境を構成する。	◎様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 ・鬼ごっこやドッジボール等戸外で思いきり体を動かしながら、簡単なルールを守り集中して取り組めるよう支え、充実感や満足感を味わえるようにしたか。 ・様々な行事や活動を通して思わず遊びたくなるような環境構成や遊びの動線を工夫することができたか。 ◎感じる心 考える力がある子 ・一人一人の育ちにに応じた認め、励ましを行い、遊びや興味に応じた環境を整え、行事や様々な遊びへの意欲を高めたか。 ・幼児の思いや気付きを周りの幼児にも広めながら話し合ったり、考え合ったりする機会を多くもつことで幼児の学びを充実することができたか。	B	・幼稚園ウィークやはとっこフェスティバル等の行事では、幼児に興味あること、幼児のイメージや思い、幼児から出てきた遊びを中心にしながら進めた。園全体でテーマをもち、職員が同じ思いをもちながら幼児と一緒に遊びを楽しみ、作り上げていくことが出来たことが良かった。 ・遊びの振り返りの時間を大切にし、自分の考えを友達に伝える経験とともに、自分とは違った考えや気付きに気付けるように友達の話に興味をもって耳を傾ける姿勢を促し、落ち着いて話し合いのできる雰囲気づくりを進めたことで自分たちで遊びを進めていく姿につながった。	・年々、発達や家庭環境からの経験不足など、多様な課題をもった幼児が増えていることを実感する。実態を考慮、配慮しながら、一人一人の良さや力がのびのびと発揮できるような環境、援助について職員全体で考え合っていきたい。 ・また、丁寧に幼児の姿や自身の援助、環境構成の記録、評価を行い、さらに職員間でも共有しながら改善点や情報の共有をしていくことで、さらなる保育の充実、幼児理解につなげていきたい。	竹馬や運動会での様子を見ると自分達の手でやりとげようとする力が育っていることを感じた。また、教師が計画的に集団遊びを取り入れることが互いが育ち合う姿につながるがよくわかる。	A
幼児の特性や発達段階に応じた教育的ニーズを把握し、一人一人に応じた支援・指導を行う。	◎思いやりがあり 心の優しい子 ・自然や生き物に対する感性を持ち、心や体をつかって表現したり、遊びに取り入れたり出来るよう保育実践や教材研究に努めたか。 ・異年齢児とのかかわりや飼育栽培物の世話を通して、あこがれや思いやりの気持ちをもつて接することができる機会を設けたか。 ◎自分の思いを伝え 素直に表現する子 ・善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなり、教師自身が幼児の心を傷つけたり、人権を損なったりするような言葉や態度、かかわり方をしないよう心がけたか。 ・幼児の気持ちに共感したり、一人一人の幼児の思いを把握しありのままを受け止めたりして内面理解に努め、思いを素直に表現できるように関わったか。	B	・身近にいる小さな虫や生き物、草花等を見たり触れたり、遊びに取り入れたりする中で季節の変化や自然の美しさ、不思議さを感じることが出来るようにタイミングを逃さず、環境として準備したことで、園庭だけでなく小学校や降園後にも進んで目を向けようとする姿へとつながった。 ・保育者自身も幼児と一緒に心を動かし、思いを共有したり幼児の興味に応じて一緒に考えたり調べたりしてきたことが、進んで図鑑や絵本を広げ、「知りたい」「調べたい」という探求心につながっている。 ・幼児の思いを丁寧に聞いて受け止めたり、友達同士の思いを橋渡ししたりしながら、互いに思いを伝えたり、集団の中でも聞き手のことを意識しながら、自分の考えを伝えようとしたりする姿が見られるようになってきている。	・教師自身が、幼児・保護者のプラス面に目を向け、互いに助け合いながら良さを認め合えるようなクラスづくり、園の雰囲気づくり、また職場づくりが出来よう心がけたい。 ・異年齢での関わりも大切にしているが、好きな遊びの時間など、行事以外の場面でもより自然と関わりがもてるような環境や援助、教師間の連携をさらに図っていきたい。	はとっこフェスティバルや生活発表会の取り組みを参観させてもらい、子供たちが互いを思いながら楽しんで表現活動を行っていると感じる。友達と思いを伝え合い、支え合いながら育っている姿がよくわかった	A
地域・家庭・学校園が連携し、地域総がかりの教育を推進する	・地域との連携に努め、季節の行事や苗植え体験、いも堀り体験等でのふれあいを通して様々な方への感謝の気持ちをもてるよう支えたか。 ・ユニット会議や青少年育成連絡会議などの内容を共通理解し、地域、小、中学校との連携や就学への憧れをもつ機会となるよう工夫できたか。 ・特別支援ルーム児や気になる幼児を中心とした幼児の関わりや育ち、園での学びについて小学校との連携を図ることができていたか。	B	・学校運営協議委員の方々が、何度も足を運んでくださり、畑の整備や苗植え、栽培など職員や幼児にも指導してくださった。幼児はお会いする度に、地域の方に大切に見守っていただいていると感じとり、感謝の気持ちを伝える機会になった。 ・加古川西高、南校との保育交流や中学校への金魚の餌やり鳩里保育園との交流など今年度はいろいろな方との交流が増え、憧れの気持ちが育った。 ・小学校の特別支援教育コーディネーターの先生が、時期ごとに保育参観に来てくださったことで一人一人の実情や課題などを情報共有し、スムーズな就学につながっていると感じる。	・小学校との交流では、行事を参観させてもらうことで小学校への憧れ、親しみを感じるきっかけとなっているが、同じ敷地内というメリットを生かし教師間の交流、情報共有の機会を増やしていきたい。 ・今年度に引き続き様々な方との交流、特に加古川幼稚園、鳩里保育園との交流保育の機会をもつことでスムーズにかこいこども園に移行できるよう努めていきたい。	家庭ではなかなかできない虫や自然に触れることやダイナミックな造形遊び、話し合いの場をもつことなど全てが小学校へつながる。これからも地域や小、中、高、保などと交流が深まるように計画していってほしい。	A
教師の資質向上・研修の充実に努める	・各学年の遊びや活動の連携や学びの連続性、気になる幼児のことについて話し合い、互いの保育に活かすことが出来たか。 ・小学校につながる学びについて考慮したクラス便りやドキュメンテーションを作成し、スクリーンでの配信等を活用しながら保護者への啓発にも努めたか。 ・保護者からの意見や上司からの指導を真摯に受け止め、反省し、課題を見つけ、フィードバックしながら保育に努めたか。	B	・保護者がドキュメンテーションに関心をもち、登降園時によく目を向けてくださっていた。写真を中心に見てくださっていると思うので、活動内容や幼児が遊びの中で夢中になって考えたり感じたり試したりしていることが伝わるような写真を撮ったり掲示したりできるように心がけた。	・行事だけでなく、普段の遊びの中での育ちや学びを分かりやすく保護者や小学校へも発信できるようにしたい。 ・遊びの中での幼児の育ちやそれにつながる環境構成、援助などをもつと職員間で情報共有したり話し合ったりする機会を作りたい。	忙しい中でも研修の場をもち、意欲的に参加されていることが保育の質の向上にもつながっている。地域や保護者への園での学びがわかるような工夫も続けていくことでより開かれた園を目指してもらいたい。	A